

私たちがつくる
私たちの新しいまち 39

町方地区
の風景

町方地区では、住宅再建が徐々に進み、建物の姿が目に見えるようになってきました。公共施設の工事も進んでいる中、事業者の本設店舗営業も徐々に見え始めてきています。こうした町方地区の現在の風景をお伝えします。



代官所跡公園



(仮称)御社地エリア復興拠点
施設名称の公募を予定

町方地区御社地エリアには、(仮称)御社地エリア復興拠点施設が整備されます。広報おつち2月号でお伝えしたとおり、「一人ひとりが手を取り合って支えよう」わたしたちの井戸端」のコンセプトのもと、文化発信の拠点、町民交流の場、震災伝承の場として、全国初となる純木造3階建ての図書館を含む複合建築物が計画されました。

現在は、基礎工事を行っており、7月から9月にかけて、建て方作業を行う予定です。30年4月のオープンを予定していますが、施設がより町民の皆さまに親しまれるよう、名称を公募により決定する予定です。募集については広報などでお知らせします。

町方地区内公園整備が進む

町方地区では、全部で10カ所の公園の整備が計画されており、松の下

公園、八日町公園、城内公園など、古い地名を冠した公園が各地に造られる予定です。現在、10のうち4つの公園が完成しており、直近では、大槌町役場前に代官所跡公園が出来

上がりました(右上写真)。また、城内、四日町、八日町、大町公園については、大槌町の特徴である豊富な湧水を生かした公園が計画されており、工事中の八日町公園内には、

かたちづくられていく街並み

湧水のための、「きつつ」(一般的に長方形の槽などを指す方言)の姿が見られます(左写真)。これらの公園は、今年度内に完成の予定です。

町方地区では、一般住宅や公営住宅への入居の他に、本設店舗による営業再開が徐々に始まり、少しずつ町のかたちが見えてきています。また、消防団屯所や、向川原虎舞会館の完成、野球・サッカーグラウンドの供用が開始されるなど、町民が行き交う市街地へと一歩ずつ歩を進めています。

まちの声



いづま 充 さん (47)
岩間 酒店経営

昔のように町ににぎわいが戻れば、と期待しています。現在イベントなどを企画していますが、一過性のもではなく、また「人が歩く町」にしていかなければと思っています。町の人には、買い物じゃなくてもいいので、散歩途中に気軽に寄って、話をしたいです。



八日町公園にある「きつつ」



人工芝の競技場 大槌こどもグリーンフィールド



(仮称)御社地エリア復興拠点施設